

【資料1】

平成23年度 佐賀市立日新学校 学校評価計画

| |
|--------------------------|
| 1 学校教育目標 |
| ふるさとを愛し、心まことに行動する日新の子の育成 |



| |
|---|
| 2 学校経営ビジョン |
| <p>〈めざす学校像〉・挨拶が響きあい、優しさあふれる学校</p> <p>〈めざす児童像〉・(よく考える子)自ら学び、よく考えて実行できる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(思いやりのある子)やさしい心で、みんなと関わり合う子ども ・(強くたくましい子)体力と気力をもち、最後までやりとげる子ども <p>〈めざす教師像〉・教育愛に燃え、人権を尊重する教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に励み、切磋琢磨する教師 ・使命感に徹し、協働しあう教師 ・児童・保護者・地域に信頼され、共に歩む教師 |



| | |
|---|---|
| 3 本年度の重点目標 | 4 前年度の成果と課題 |
| <p>1 子どもの人間力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心づくり ○知づくり ○体づくり <p>2 教師力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業力の向上 <p>3 学校力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○危機管理対応 ○学年経営の充実 <p>4 幼・保・小・中連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連絡協議会での相互理解 ○小中での授業交流 <p>5 いじめ・命を考える取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集会活動の充実 ○言葉を大切に生活指導 <p>6 市民性を育む取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携 | <p>○学力向上には心育て、学びの構え作りが大切と考え、校内研究を進めてきた。道徳による学び合いをさらに進め自己肯定感をもたせながら学びの構えを定着させる必要がある。</p> <p>○学校経営方針の目標達成に向け、職員各自が各学年経営及び校務分掌において、具体的方策を立て個人として組織として取り組むことができた。学年経営をより一層強化して組織的に取り組み、学校力を向上させることが課題である。</p> <p>○「わいわいタイム」や「さわやかタイム」の活用で友だちとの関わり合いが以前より充実してきた。さらに友達に対して優しさや温かみのある言葉や行動で関わりを深められる人権教育を推進する必要がある。</p> <p>○児童の地域行事への関心は高まってきている。学校から啓発、呼びかけを強化し保護者とともに地域行事に参加し地域と学校・保護者が連携した子ども育てを進める必要がある。</p> |



① 子どもの人間力づくり

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 担当 | 具体的方策 |
|------|---------------|---------------------------|---|----------------------|---|
| 教育活動 | ●心の教育 | 「道徳」授業の充実 | ・全学級で「ふれあい道徳」を実施する。 ・全学級で「関わり合い」の活動を取り入れた道徳授業の実践を計画的に行う。(年間9回) | 小松原 岩崎 | ・年間2回のフリー参観デーのいずれかで、全学級が「ふれあい道徳」を実施する。 ・毎月第1週に「他者との関わり」の観点の道徳授業を行い、指導案集を冊子化する。 |
| 教育活動 | ●心の教育 | 校外環境の美化 | ・4つの掃除のめあてが達成できる児童を80%以上にする。 | 江島 吉田 藤崎 | ・学級の掃除区域を明示することで、隅々まで掃除が行き届くようにする。 ・そじビカビカ週間に年間3回設定し、校内の美化に努める。 |
| 教育活動 | ○学校図書館教育 | 読書指導の推進 | ・学校目標53,000冊を目指す。 | 西川 谷口 久我 田中 | ・学級で個人貸出目標を設定して図書館図書の出増加を図り、家庭読書を推進する。 ・読み語り、図書館まつり等で読書への関心を高める。 |
| 教育活動 | ●低学年学習環境の改善充実 | 基礎学力の定着を図るための学習習慣・生活習慣の育成 | ・基礎学力や学習・生活習慣を身につけさせるために、指導を繰り返し、85%以上の児童に身につけさせる。 | 久保 石隈 | 低学年部会において、学期毎に「低学年指導計画書」に基づいて形成的評価を行い、基礎学力や学習・生活習慣を身につけさせる。 |
| 教育活動 | ●指導法改善 | 基礎学力の向上 | ・算数科の基本的内容の定着率80%以上を目指す。 | 江口 吉田 | ・指導形態の工夫により分かる授業づくりに努める。 ・問題データベースを生かし、補充・発展問題に取り組ませる。 |
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 食教育の推進 | ・給食のマナーを守って食べ、残滓率を4%以下にする。 ・保護者へ食の大切さを知らせる。 | 吉田 乗富 | ・給食委員会の活動に、正しい食事マナーのお知らせ活動を組み込んでいく。 ・食育だよりを学期に1回発行し、保護者に食の大切さを知らせる。 |

② 教師力づくり

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 担当 | 具体的方策 |
|------|-----------|--------------------|---|-----------------------|---|
| 学校運営 | ○教職員の資質向上 | 授業力の向上 | ・道徳の授業を中心に「関わり合い」を設定した授業を進め、各教科においても指導技術を身につけ、職員の資質向上を目指す。 ・「関わり合い」の設定、展開、指導技術、指導力の向上において、職員の85%が実感できるようにする。 | 教頭 教務 光武 小松原 | 道徳の授業を中心に「関わり合い」の場を設定し、話し合いの持ち方など、より深い学び方の持ち方などを研究授業を通して進めていく。 ・学校改善委員会を学期に2回開催し、学力向上への取り組みの立案実施をする。 |
| 学校運営 | ○教職員の資質向上 | 指導技術の向上 | ・ICT機器を取り入れた授業実践を行う。 ・教育センター研修、各種研究会に積極的に参加する。 | 教頭 | ・「この指とまれプロジェクト」としてICTを活用した授業研究会を実施する。 ・教育センター講座、研究大会の情報を提示し、積極的な参加を促す。 |

| | | | | | |
|------|---------|---------|--|-----------------|--|
| 教育活動 | ○特別支援教育 | 児童理解の深化 | ・支援が必要な児童の実態を把握し、その児童については個別の支援計画を作成し、支援に生かすことができる。 ・特別支援学級の児童を中心に、理解を深め職員での共通理解を図る | 北村律 横尾 谷口 | ・子ども情報会で「気になる子」の情報を記録として残し、職員で情報を共有する。 ・なかよし学級の児童について、実態や対応について研修会等を通して共通理解を図る。 ・全職員がなかよし学級参観を行い、特別支援教育への理解を深める。 |
|------|---------|---------|--|-----------------|--|

③ 学校力づくり

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 担当 | 具体的方策 |
|------|-----------|--------------------|---|------|--|
| 学校運営 | ○学校経営方針 | 教育目標、本年度重点目標の周知 | ・教職員・児童・保護者・地域住民に周知する。 ・方針、内容についての保護者の理解及び認知度を90%以上にする。 | 教頭 | ・職員会議、全校朝会、PTA総会、学校説明会、学校だより、HP等で学校の経営方針を説明する。 ・各担任は学級懇談、学級便り等で保護者に重点目標、経営方針等について知らせる。校長はPTA総会での取り組みの説明並びに地域の会議等に参加し方針等の理解の向上に努める。 ・地域の諸機関・施設等に学校パンフレットを配布し方針理解に努める。 |
| 学校運営 | ○危機管理体制 | 報告・連絡・相談の徹底 | ・生徒指導上の問題、事故、避難を要する事案発生時において、速やかに連絡・報告・相談ができる体制を作る。 ・不審者避難対応、地震避難対応、火災避難対応訓練において、具体的場面を想定した実践的な訓練を実施し、10分以内に完全に避難できるようにする。 | 教頭 | ・日常より、報告・連絡・相談を徹底する。 ・事案発生時の対応について、危機管理マニュアルを基に研修し、対応の仕方を確認する。 ・具体的場面を想定した各種避難訓練を、警察、消防署等他機関の指導を受けながら実施する。 ・集団下校の訓練を行い、非常時に備える。 |
| 学校運営 | ○教職員の資質向上 | 学年・学級経営の充実 | 学年・学級経営案の達成率及び達成感を80%にする。 | 学年主任 | ・学年経営案に沿って実践し、学期毎に自己評価を行う。 ・学年主任会を学期に2回行い、各学年の進捗状況を確認する。 |

④ 幼・保・小・中の連携

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 担当 | 具体的方策 |
|------|--------|--------------------|-----------------------|------|--|
| 学校運営 | ○校種間連携 | 幼保・小連携の推進・強化 | ・交流計画に基づき、交流・連携を図る。 | 教務久保 | ・連絡協議会で、保育園・幼稚園との意見交換の場を設定し、連携及び理解を求めめる。 ・保育園・幼稚園参観を行い職員相互の理解を求めめる。 ・園児の入学への期待が高まるように、園児と1年生児童の交流会を相互の施設で開催する。 |
| 学校運営 | ○校種間連携 | 小・中連携の推進 | ・児童生徒同士の交流、職員間の交流を図る。 | 教務江頭 | ・高学年担任は中学校の授業参観を行う。 ・「ようこそ先輩」を実施する。 ・中学校教諭と担任の授業を実施する。 |

⑤ いじめ・命を考える取り組み

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 担当 | 具体的方策 |
|------|-------|--------------------|--|-----------------|--|
| 教育活動 | ●心の教育 | 集会の充実 | ・わいわいタイム、さわやかタイムを通して繋がりが合うことの大切さを伝える。 ・QUTテストを実施し、実態把握を深める。 | 松尾 松信 各担任 | ・全学級でQUTテストを行い、分析を踏まえ学級経営に生かす。 ・構成的グループエンカウンターやソーシャルスキル等を計画的に実施し支持的集団づくりに努める。 |
| 教育活動 | ○生徒指導 | 基本的生活習慣の確立 | ・丁寧な言葉遣いができる児童を75%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、子どもたちが丁寧な言葉遣いに気をつけながら生活できているという肯定的割合を80パーセント以上にする。 | 松尾 谷口 横尾 | ・月ごとの「みんなの生活目標」において、言葉遣いに関する重点項目を掲げ指導を行う |

⑥ 市民性を育む取り組み

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 担当 | 具体的方策 |
|------|---------|--------------------|--|---------|--|
| 教育活動 | ○開かれた学校 | 地域人材との交流 | ・生活科、総合的な学習の時間、安全教育等の時間に地域人材と関わり合う体験的授業を取り入れる。 | 教務各学年主任 | ・より学習効果が高まるようゲストティーチャーを活用したり交流したりする。 ・児童の企画による「地域の方々 ありがとう集会」など、感謝の気持ちを持たせ、ふるさとを愛する気持ちを育てていく。 |
| 学校運営 | ○開かれた学校 | 地域連携の推進・強化 | ・地域行事に80%以上の児童が参加する。 ・教育活動との様子を発信する。 | 教務江頭各学年 | ・町区及び公民館行事を紹介し、積極的な参加を促す。 ・学校ホームページを学校行事終了後に更新する。また、学年ホームページも学期に1回更新する。 |

●は共通評価項目、○は独自評価項目